

社会から期待され、 社会に貢献する学部を目指して

応用生物科学部 学部長 杉山 誠



平素より、各務同窓会会員の皆様には、応用生物科学部に対しご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

さて私儀、福井博一前学部長の後任として、本年4月より学部長を拝命いたしました。昨今の大学を取り巻く厳しい情勢のなか、役不足の感は拭えませんが、これまで7年間の副学部長の経験を活かし、学部の教職員、そして執行部の皆様のご協力・ご支援をいただきながら学部の運営を図る所存であります。各務同窓会の皆様におかれましても、引き続きご支援いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

国立大学は、全ての大学で義務づけられている「大学機関別認証評価」(学校教育法)のほか、自ら設定した中期目標に対する達成度について評価を受けなければなりません(国立大学法人法)。昨年度、第2期中期目標期間(平成22～27年度)の活動について、岐阜大学は「良好」または「おおむね良好」と達成状況を評価されました。本学部の活動としては、鳥取大学との共同獣医学科の設置、広西大学とのダブル・

各務同窓会報



岐阜大学

ディグリー制度、附属動物病院の充実、岐阜県中央家畜保健衛生所の学内移転等が高く評価されています。昨年度から第3期に入り、新たな中期目標にしたがって大学の活動が始まりました。

まず同窓会の皆様にご報告することとして、本学部関連の大学院の動向があります。今年4月に本学の特徴「生命・環境・ものづくり」の修士課程教育を担う工学研究科と応用生物科学研究科を統合し、新たに「自然科学技術研究科」が設置されました。新研究科は6つの専攻で構成され、そのうち生物生産環境科学専攻と生命科学・化学専攻が本学部関連の専攻となります。特に、生命科学・化学専攻は応用生命科学研究所の応用生命科学専攻と工学研究科の生命工学専攻とで構築され、新研究科の工学・応用生物科学融合の象徴的な存在となっています。新研究科では、各専門性教育に加え、課題解決に向けた創造的なアプローチを目指す「デザイン思考」教育を特徴としています。

一方、連合獣医学研究科については、平成30年に岩手大学・東京農工大学が

共同獣医学専攻を、帯広畜産大学が畜産学研究科獣医学専攻を、さらに平成31年に岐阜大学・鳥取大学が共同獣医学専攻を設置する、すなわち各大学の共同獣医学教育を基本に、発展的に解消する方向で検討が進められています。

本学は、地域社会の活性化の中核拠点として、地方創生の一翼を担うことを使命として定めています。そのなかで、6月には、岐阜県知事、岐阜大学長はじめ多くの関係者が参列し、学内に建設された岐阜県中央家畜保健衛生所の開所式が盛大に行われました。自治体の施設が国立大学内に設置されるのは初めてのことから、マスコミ各社による報道もあり、全国的に注目を集めました。これに続き、岐阜県産業技術センター食品部を学内に移転し、食品科学研究所(仮称)として設置する構想が固まり、応用生物科学B棟東隣接地で建設工事が始まりました。食品分野の総合支援拠点として食品開発の研究を促進させ、岐阜県における食品産業の高付加価値化と新市場獲得が期待されています。

他にも本学部は地域と連携して様々な事業に取り組んでいます。揖斐川町小津地区活性化プロジェクトでは、空き家を活用した活動拠点「Oz倶楽部セミナーハウス」が同町より提供され、1月に富田和弘町長も出席され、開所式が行われました。3月には、本学部と全国農業協同組合連合会岐阜本部との間で、岐阜県農政部の立ち会いの下、飛騨牛の育成人材の養成ははじめ

業全般にわたる連携活動のため、協定を締結しました。さらに、深刻な地域課題である鳥獣害対策について取り組んできた野生動物物管理学研究センターでは、5年前に岐阜県からの寄附により設置された「鳥獣対策部門」が、部門名を「鳥獣管理の教育と普及」と改称し、4月から第2期(平成29～33年)の活動が始まりました。8月には、各務原市および同市畜産振興会との連携協定に基づき、附属農場において同市の小・中学生を対象とした公開講座を開催し、子供たちが牛に触れ、目を輝かせる様子を浅野健司市長が視察されています。他に、岐阜県酒造組合の連携協定の下、平成31年開催予定の大学創立70周年記念祝賀会での披露を目指して、中川智行教授の指導により、岐阜大学ゆかりの米、水そして開発酵母にこだわった「岐大酒」の開発が進められています。

以上、福井前学部長により策定された様々な事業により、学内での本学部の存在はますます大きくなっています。引き続きこの路線を継承し、社会から期待され、社会に貢献する学部を目指していく所存であります。と申ししましても、予算はじめ国立大学を取り巻く状況が大変厳しいなか、このような活発な活動が可能なのも、同窓生の皆様が築かれた伝統と皆様からの暖かいご支援の賜物と考えております。深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援賜りたく、よろしくお願いいたします。

大きく変化する 岐阜大学

各務同窓会会長

水野 隼人（て大15）



察いたします。

今、岐阜大学は大きく飛躍しようとしています。

岐阜大学の強みである医、薬、獣の研究機能を生かし新しい生命の鎖統合研究センターが発足し国内・世界へ羽ばたきました。

さらに、地域との連携をより深めるために県中央家畜保健衛生所、食品科学研究所のキャンパス内設置が計画されています。

まさしく、地域一体、国際研究拠点として羽ばたこうとしています。

私たちのめざす農学部・応用生物科学部創立100周年はこのようになかにもあります。

岐阜大学も創立70周年を2年後にひかえ私たち同窓生にとっても大きな活力となる年です。

昨年ご報告した大学と同窓会連合会が共同して創った表彰制度の2年目にV大12卒業の竹中登一様（元アステラス製薬会長）が受賞

されました。

素晴らしい先輩を輩出した各務同窓会は、いま中国・ブラジルを含め37都府県66支部で活躍しています。

私たちの母校は今、大きく羽ばたこうとしています。

私たち卒業生がそれぞれ愛着をもつて同窓会を、そして岐阜大学をさらに岐阜県に目をむけようではありませんか。

金華山も、長良川も、鶺鴒も待つてます。

ご挨拶

幹事長 土田 浩治



同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本年度より、各務同窓会幹事長を拝命しました土田です。昨年度は幹事として1年間見習い期間を過ご

し、本年度から2年間幹事長を務めます。よろしく願います。

本年度からの大きな課題は、来年度に控えます95周年祝賀行事とそれに続く100周年記念事業です。そこで、各務同窓会では、100周年記念事業会を立ち上げ、5月18日にはその第1回役員

会を開催し、今後の事業内容の話し合いを開始しました。そこでは、95周年と100周年の間隔が比較的短いこともあり、95周年祝賀会は85周年祝賀会事業で行ったような大がかりなものとはせず、その分、100周年記念事業では記念誌の発行や祝賀会の開催、さらには在校生を対象とした奨学金制度の創設などを行い、比較的大がかりな事業を行うことを話しあっています。平成30年の6月に開催予定の95周年祝賀行事としては、代表委員会、講演会と祝賀会の準備を始めております。その際には、代表委員以外の方々も数多く参加していただくと幸いです。

平成31年6月には、岐阜大学が創立70周年という節目の年を迎えます。岐阜師範学校、岐阜県立女子医学専門学校、岐阜県立高等学校、岐阜高等農林学校をルーツにもつ本学は昭和24年5月31日に新制大学として発足して以来、来年には創立70周年を迎えます。この記念事業として、現在、学術アーカイブスの整備が始まっております。アーカイブスとは、いわゆる、岐阜大学に関わった研究者や学生が、様々な学実活動を通じて収集した資料などを整理し、その一部を展示する事業です。ここでは、岐阜高等農林学校当時の画像、文章（教科書、教材、時間割

など）、もの（校章や制服）なども対象となっております。もし、会員の皆様のお手元にそのような物がございましたらご一報下されば幸いです。

さて、私は岐阜大学農学部に平成5年に助手として着任して以来、20数年が経過しました。これまで、もの（校章や制服）なども対象となっております。もし、会員の皆様のお手元にそのような物がございましたらご一報下されば幸いです。

さて、私は岐阜大学農学部に平成5年に助手として着任して以来、20数年が経過しました。これまで、もの（校章や制服）なども対象となっております。もし、会員の皆様のお手元にそのような物がございましたらご一報下されば幸いです。

平成二十九年度 各務同窓会代表委員会のご報告

表記の代表委員会が、平成29年6月3日の午前11時半より、岐阜大学応用生物科学部101講義室で行われました。水野隼人会長の挨拶に始まり、来賓の紹介、土田幹事長挨拶に引き続き、学長から岐阜大学の現状と展望について紹介がありました。その内容は大学とはなにか、国立大学を取り巻く環境、岐阜大学の歴史、現状、モットーだけでなく、岐阜大学の将来ビジョンといった多岐にわたるものでした。熊崎議長の司会進行で平成28年度事業・決算報告および会計報告、平成29年度事業計画（案）と平成29年度予算（案）、平成29年度岐阜大学各務同窓会役員（案）、寄付金決算報告、100周年記念事業（案）、の6件の議案を討議いたしました。すべての議案は無事承認されました。それに続いて、名誉会長の杉山誠応用生物

科学部長からご挨拶を頂き、応用生物科学部の現状や今後の取り組みのなかでも、教育・研究・社会貢献・管理運営等について、紹介がありました。教育では改善を実施することや、国内外の様々な分

までに各支部の総会に参列させていただく機会もあり、各地の同窓生の岐阜大学への期待を肌で感じることができております。今後同窓生の期待に応えようような学生を輩出することが我々の責務の一つであると感じております。今後2年間、よろしく願います。

までに各支部の総会に参列させていただく機会もあり、各地の同窓生の岐阜大学への期待を肌で感じることができております。今後同窓生の期待に応えようような学生を輩出することが我々の責務の一つであると感じております。今後2年間、よろしく願います。





野で活躍する人の養成を行うことについて具体的な取り組みが紹介されました。研究では生命の鎖統合センターの紹介、研究費および時間の確保など研究を活性化および強化するための方針が示されました。社会貢献では中央家畜保健衛生所および食品科学研究所の岐阜大学内移転、揖斐川町活性化事業、野生動物対策事業、JA全農岐阜との連携、酒造組合との連携といった岐阜県を中心とした地域社会において貢献している事例が紹介されました。管理運営では大規模改修、事務の効率化、リスク管理の強化(情報、化学物

質、安全衛生、環境など)、付属施設(フイールド科学教育研究センター、動物病院)の機能強化といった事例が紹介されました。その他として大学70周年および学部100周年記念事業の準備について紹介がありました。代表委員会に引き続き、交流会を開催いたしました。今年度はiGEM(国際合成生物学大会)Giftuチームによる研究報告があり、活動内容の紹介や3年連続銀賞を受賞したこと、同窓会の支援が学生の自発的な学びに活かされていることが報告されました(iGEM:International Genetically Engineered Machine competition)を略した名称で、学部生主体で行われる世界的な合成生物学の大会。約250チームが



参加して英語による口頭発表(プレゼンテーション)とポスター発表を行い、優秀なものは表彰される。その交流会では、全国の代表委員の方から持参して頂いた地酒を飲みながら、楽しく交流をすることができました。遠路出席して頂いた委員の皆様には、お礼を申し上げます。なお、同窓会事務局へご質問・連絡等がありましたら058-293-3411(16時以降は留守番電話になります)、E-mail: ob-abs@gifu-u.ac.jpまでよろしく願います。

平成28年度 支部総会開催状況

支部名	期日	出席者
東京E科会	28.04.26	千家 正照 東京E科会と合同開催
東京E科現役会	28.04.26	千家 正照 東京E科会と合同開催
富山県	28.05.14	柳井 徳磨
愛知県各務会・愛知各務会	28.05.28	水野会長、土田 浩治
岐阜県高等学校	28.06.25	千家 正照、光永 徹
愛知県高等学校教員	28.06.25	土井 守
石川県	28.07.02	北川 均、平工副会長
長野北信	28.07.09	大場 恵典
京都	28.07.09	平工副会長、松山 勇人
岐阜	28.07.10	柳井 徳磨
愛知県職員林務関係同窓会	28.07.23	向井 譲 各務林学同窓会 愛知県支部と合同開催
各務林学同窓会愛知県	28.07.23	向井 譲 愛知県職員林務関係同窓会 支部と合同開催
愛知県職員農業関係各務同窓会	28.08.26	水野会長、松山勇人
中濃	28.11.05	平工副会長、柳井 徳磨
江南	28.11.12	向井 譲
徳島鳴門会	29.01.21	平工孝義副会長
岐阜県職	29.02.04	福井博一、土田浩治、西村直正、松山勇人、水野隼人、平工孝義
岐阜市役所	29.02.08	福井 博一
岐阜大学	29.03.03	会長、副会長
東海農政水機構	29.03.08	平松 研

平成29年度岐阜大学各務同窓会役員

名誉会長	杉 山 誠	
会長	水 野 隼 人	(C大15)
副 会 長	正 村 洋一郎	(F大25)
	伏 見 知 彦	(C大18)
	北 川 精 一	(V大18)
	安 藤 敏 行	(E大19)
	川 島 光 夫	(P大7)
	高 橋 実	(A大13)
	平 工 孝 義	(A大25)
相 談 役	杉 山 幹 夫	(M1)
	新 藤 秀 逸	(SP21)
	中 村 孝 雄	(N大7)
	後 藤 悦 男	(V大2)

平成29年度幹事長・幹事及び監事

幹事長	土田 浩治	(生産環境科学課程)
幹 事	(庶務・幹事長代理)	松山 勇人 (共同獣医学科)
	(事業)	柳瀬 笑子 (応用生命科学課程)
	(会計)	松原 陽一 (生産環境科学課程)
		勝野那嘉子 (応用生命科学課程)
監 事	森 崇	(共同獣医学科)

各務同窓会報

平成28年度各務同窓会決算報告

自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 会費	2,420,000	1,727,300	△ 692,700
入会金	2,370,000	1,660,000	△ 710,000
年会費	50,000	67,300	17,300
2. 利子	24	23	△ 1
3. 雑収入	500,000	476,220	△ 23,780
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,430,000	3,230,000	△ 200,000
当期歳入合計(A)	6,350,024	5,433,543	△ 916,481
前年度繰越収支差額	549,238	549,238	0
歳入合計(B)	6,899,262	5,982,781	△ 916,481

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事務費	1,932,500	1,944,029	11,529
消耗品費	5,000	1,294	△ 3,706
人件費	1,750,000	1,704,747	△ 45,253
通信費	38,000	36,288	△ 1,712
旅費	36,000	39,000	3,000
終身会費返金	100,000	160,000	60,000
雑費	3,500	2,700	△ 800
2. 会議費	1,004,000	643,474	△ 360,526
代表委員会費	200,000	83,227	△ 116,773
代表委員会旅費	800,000	558,060	△ 241,940
役員会費	4,000	2,187	△ 1,813
3. 事業費	2,330,000	2,208,451	△ 121,549
会報等印刷費	600,000	600,000	0
会報郵送費	900,000	839,520	△ 60,480
会報発送雑費	780,000	737,681	△ 42,319
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	21,250	△ 18,750
4. 名簿関係費	7,500	0	△ 7,500
発送費	7,500	0	△ 7,500
5. 慶弔費	50,000	34,914	△ 15,086
6. 支部総会派遣費	300,000	427,580	127,580
7. 卒業・修了祝賀会 賛助費	150,000	150,000	0
8. 予備費	70,000	28,755	△ 41,245
当期歳出合計(C)	5,844,000	5,437,203	△ 406,797
当期収支差額(A)-(C)	506,024	-3,660	△ 509,684
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,055,262	545,578	△ 509,684

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 終身会費	4,550,000	3,320,000	△ 1,230,000
新入生分	4,500,000	3,300,000	△ 1,200,000
卒業生分	50,000	20,000	△ 30,000
2. 雑収入	0	0	0
3. 利子	6,485	10,501	4,016
当期歳入合計(A)	4,556,485	3,330,501	△ 1,225,984
前年度繰越収支差額	60,446,954	60,446,954	0
歳入合計(B)	65,003,439	63,777,455	△ 1,225,984

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 一般会計への繰入	3,430,000	3,230,000	△ 200,000
2. 振込料	1,000	0	△ 1,000
3. 100周年記念事業会へ繰入	1,000,000	1,000,000	0
当期歳出合計(C)	4,431,000	4,230,000	△ 201,000
当期収支差額(A)-(C)	125,485	-899,499	△ 1,024,984
次期繰越収支差額(B)-(C)	60,572,439	59,547,455	△ 1,024,984

3. 百周年記念事業会

(単位：円)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 基本金特別会計より繰入	1,000,000	1,000,000	0
利息	0	4	4
歳入合計	1,000,000	1,000,004	4

4. 資産現在高

(単位：円)

項目	年度始現在高	現在高
1. 一般会計	549,238	545,578
2. 基本金特別会計	59,446,954	59,547,455
3. 百周年記念事業会	1,000,000	1,000,004
合計	60,996,192	61,093,037

5. 資産保管状況

(単位：円)

項目	一般会計	基本金会計
1. 現金	22,524	
2. 普通預金		
大垣共立銀行		
十六銀行	474,257	4,049,223
三井住友信託銀行		3,554,770
三菱UFJ信託銀行		0
郵便局	38,797	
みずほ銀行		5,477,280
3. 定期定期貯金		
大垣共立銀行		9,609,823
十六銀行		21,836,363
三井住友信託銀行		16,000,000
三菱UFJ信託銀行		0
4. 振替貯金	10,000	20,000
合計	545,578	60,547,459
総計		61,093,037

平成29年度各務同窓会予算

収支予算書 (平成29年4月1日～平成30年3月31日まで)

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 会費	2,550,000	2,420,000	130,000
入会金	2,500,000	2,370,000	130,000
年会費	50,000	50,000	0
2. 利子	25	24	1
3. 雑収入	500,000	500,000	0
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,430,000	3,430,000	0
当期歳入合計(A)	6,480,025	6,350,024	130,001
前年度繰越収支差額	542,838	549,238	△ 6,400
歳入合計(B)	7,022,863	6,899,262	123,601

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 事務費	2,042,500	1,932,500	110,000
消耗品費	5,000	5,000	0
人件費	1,800,000	1,750,000	50,000
通信費	38,000	38,000	0
旅費	36,000	36,000	0
終身会費返金	160,000	100,000	60,000
雑費	3,500	3,500	0
2. 会議費	1,004,000	1,004,000	0
代表委員会費	200,000	200,000	0
代表委員会旅費	800,000	800,000	0
役員会費	4,000	4,000	0
3. 事業費	2,330,000	2,330,000	0
会報等印刷費	600,000	600,000	0
会報郵送費	900,000	900,000	0
会報発送雑費	780,000	780,000	0
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	40,000	0
4. 名簿関係費	7,500	7,500	0
発送費	7,500	7,500	0
5. 慶弔費	50,000	50,000	0
6. 支部総会派遣費	500,000	300,000	200,000
7. 卒業・修了祝賀会 賛助費	150,000	150,000	0
8. 予備費	70,000	70,000	0
当期歳出合計(C)	6,154,000	5,844,000	310,000
当期収支差額(A)-(C)	326,025	506,024	△ 179,999
次期繰越収支差額(B)-(C)	868,863	1,055,262	△ 186,399

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 終身会費	5,050,000	4,550,000	500,000
新入生分	5,000,000	4,500,000	500,000
卒業生分	50,000	50,000	0
2. 雑収入	0	0	0
3. 利子	6,553	6,485	68
当期歳入合計(A)	5,056,553	4,556,485	500,068
前年度繰越収支差額	60,547,459	60,446,954	100,505
歳入合計(B)	65,604,012	65,003,439	600,573

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	差異
1. 一般会計への繰入	3,430,000	3,430,000	0
2. 創立100周年記念事業会への貸し付け	0	1,000,000	△ 1,000,000
3. 振込料	1,000	1,000	0
当期歳出合計(C)	3,431,000	4,431,000	△ 1,000,000
当期収支差額(A)-(C)	1,625,553	125,485	1,500,068
次期繰越収支差額(B)-(C)	62,173,012	60,572,439	1,600,573

3. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

(単位：円)

勘定項目	今年度予算	前年度予算額	比較増△減額
1. 基本金特別会計より繰入	0	1,000,000	△ 1,000,000
2. 利子	8	0	8
3. 前年度繰越収支差額	1,000,000	0	1,000,000
歳入合計	1,000,008	1,000,000	8

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	前年度予算額	比較増△減額
1. 事務費	50,000	0	50,000
2. 会議費	80,000		80,000
3. 旅費	120,000		120,000
4. 雑費	50,000		50,000
歳出合計	300,000	0	300,000

学園だより

課程等の近況

◆応用生命科学課程

同窓生の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。平成29年度も課程長として、分子生命科学コース長の岩橋均教授、食品生命科学コース長の西津貴久教授のご協力を頂きながら、本課程の発展に尽力したいと思います。皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。

当課程は、本年3月に学部卒業生85名を送り出し、そのうち44名が大学院修士課程に進学しました。修士課程修了者は40名で、そのうち6名が岐阜大学連合農学研究科博士課程に進学しました。この4月には、本課程に85名の新入生及び6名の3年次編入学生を迎え入れました。大学院修士課程には平成28年度秋季入学生6名を加えて58名が入学しています。

続いて教員の動向をお知らせします。本年4月1日付で、今泉鉄平（食品素材科学）、島田敦広（生物化学）、橋本美涼（生物化学）、山内恒生（天然物利用化

学）の4名の助教をお迎えしました。10ページの各自の自己紹介をご参照ください。また、岩本悟志、海老原章郎、中川寅の3名の准教授が教授に昇任されました。さらに、安藤弘宗特任准教授（CoMS担当）が、本学の「生命の鎖統合研究センター（G-CHAN）」の教授に昇任され、京都大学から同センターに着任された鈴木健一教授と共に、本課程の教育にも参画してくださいます。一方、葭谷耕三先生が平成30年3月でご定年を迎えられます。平成8年10月に教養部から農学部に移動されて以来、教育、研究、管理運営に幅広くご尽力頂きました。改めて感謝申し上げます。また、今村彰宏准教授が平成29年度日本糖質学会奨励賞を受賞されています。

学生の表彰に関しましては、平成28年度卒業・修了時に竹内萌恵さん（学部・学長表彰）、岡田 雄大くん（研究科・学長表彰）小栗 唯人くん（学部長表彰）、小川 陽加さん（同窓会長表彰）、林 咲那さん（研究科長表彰）、吉岡 優くん（同窓会

長表彰・大学院）が表彰され、また本年6月1日の創立記念日に日置 裕介くんが学生表彰を受けました。この他にも、28年度の実績ではありますが、5名の大学院生（修士）と1名の学部生が学会で優秀発表賞等を受賞して、研究科長表彰並びに学部長表彰を受けています。

最後に本課程が責任を担っている3つの取り組みを紹介させていただきます。1つは昨年の本稿にも記載した、岐阜県の食品科学研究所（仮称）の岐阜大学内への移転（平成31年4月竣工）とそれに伴う連携の強化です。本課程では矢部富雄教授が中心になって、研究と教育の両面で積極的な連携を進めるべく岐阜県との協議を進めています。2つ目は岐大酒プロジェクトとパン・シンポジウムの開催です。前者では、中川智行教授が中心になって岐阜大学オリジナルの日本酒の開発を進めており、完成間近と伺っています。また、本課程ではパンの研究が活発であり、鈴木徹教授の発案で本年9月にシンポジウムを開催することが決まりました。課程のHP等でご紹介させていただきます。3つ目は、インド工科大学グワハティ校とのJoint Degree (JD) Programです。JDは文部科学省が積極的

に進めているプログラムで、本課程では、岩本教授が博士課程、海老原教授が修士課程の中心となつて準備を進めています。岐阜大学の方針の一つである地域に根ざした国際化に大いに寄与することと思います。

末筆乍ら、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

（石田秀治）

◆生産環境科学課程

生産環境科学課程の近況をご報告申し上げます。

本年3月、本課程から83名が卒業し、その内の40名（他大学の大学院も含む）が修士課程へ進学いたしました。また本研究科第8期修了生として生物環境科学専攻から41名を送り出し、その内の6名が博士課程へ進学いたしました。3月の卒業・修了祝賀会においては、卒業生では花田雄亮さんが学部長表彰、長屋諒さんが同窓会長表彰を受け、修了生では臼田将之さんが研究科長表彰、藤井健生さんが同窓会長表彰を受けました。また本年4月には、本課程に新入学生85名（3年生編入学生5名を含む）、研究科専攻に49名を迎えました。

次に各コースの動向についてお知らせいたします。

応用植物科学コースは14名の教員からなり、コース長は松井勤教授です。管理運営面では、大学院担当教員である大場伸也教授はフィールド科学教育研究センター長としての任にあたっており、小山博之教授は学長補佐として活躍されています。本年4月に秋田県立大学生物資源学部から李命美氏が准教授（農村経営マネジメント学）として、京都大学大学院博士課程の学生であった田中貴氏が助教（作物栽培学）として着任されました。また本年4月1日付で、山根京子氏（遺伝育種学）と小林佑理子氏（植物栄養学）が准教授に昇任されました。研究活動の成果としては、山本義治教授が2017年日本農芸化学会トピック賞を、また



各務同窓会報

須賀晴久准教授の指導のもとで修士学生のSuliana ShaminさんがInternational Symposium on Mycotoxicology 2016における口頭発表によりYoung Researcher Awardを、さらに、山根京子准教授の指導のもとで道木奈那さんが第24回育種学会中部地区談話会において優秀ポスター賞を受賞されました。

応用動物科学コースは10名の教員からなり、コース長は岩澤淳教授です。本年4月1日付で、八代田真人氏（動物生産栄養学）と山本朱美氏（動物栄養科学）が教授に昇任されました。研究活動の成果としては、楠田哲士准教授の指導のもとで大淵恵子さんが平成28年12月に行われた勇魚会（海棲哺乳類の会）2016年度シンポジウムにおいて口頭発表最優秀賞を受賞されました。

環境生態科学コースは17名の教員からなり、コース長は平松研教授です。管理運営面では千家正照教授が連合農学研究科長として研究科の運営に、土田浩治教授が副学部長（企画・評価担当）として学部運営に尽力されておられます。本年4月1日付で、安藤正規氏（森林動物管理学）が准教授に昇進され、愛媛大学農学部から西山竜朗氏

が准教授（農業施設工学）として静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センターから片畑伸一郎氏が助教（森林生態科学）として、東京大学生産技術研究所から乃田敬吾氏が助教（水利環境学）として着任されました。また、野生動物管理学研究センターの森部絢嗣氏が8月に准教授（野生動物資源学）として本コースに所属を異動され、平成28年度獣医学術中部地区学会地区学会賞を受賞されました。末筆ながら、同窓生各位のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

（土井 守）

◆共同獣医学科

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度の共同獣医学科1年生（5期生）は68名（岐阜大学32名、鳥取大学36名）を数えました。すなわち本学科には、1期から5期までの合計340名が在籍していることとなります。

まずは人事に関するご報告です。昨年度から今年度にかけて、2名の教授（北川均先生と石黒直隆先生）が定年退職され、猪

島康雄先生が食品環境衛生学研究室の教授として昇任いたしました。加えて、2名の助教（岡田彩加先生と小島結先生）が、それぞれ食品環境衛生学研究室と獣医内科学研究室に着任されました。

昨年度お知らせした「獣医学共用試験（vCBT-OSCE）」は、本年2月に予定通り実施されました。特段のトラブルもなく受験した4年生（現5年生）全員が合格し、胸をなで下ろしております。キャンパス内で建設が進められていた「岐阜県中央家畜保健衛生所」につきましては、6月16日に開所式が行われました。これにより、同所との有機的連携を目指し設置された「家畜衛生地域連携教育研究センター（GeFATH）」の活動も本格化することになります。

「獣医学部新設」に関するニュースが毎日のように流れる中、獣医学教育に対する注目度は、いやが上にも高まっております。教職員一同、このような社会的関心に照らしめて決して恥じることはないよう、日夜努力を続けております。つきましては、引き続き皆様方のご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願いいたします。

（鈴木正嗣）

◆連合農学研究科

各務同窓会の皆様には、まずご健勝のこととお喜び申し上げます。

はじめに、本年度は事務職員的大幅異動がありました。定年退職した吉田智子係長の後任として中峰明春氏、新卒の今井彩乃氏を迎えました。また、留学生対応の辻亜由美氏が退職し、引き続き国際担当として吉田智子氏を再任用致しました。平成29年度は、千家研究科長、中野研究科長補佐（専任教員）他、事務の都竹室長、中峰係長、今井、吉田、高橋、戸本、笠井が一致協力して本研究科の管理運営に努めております。

本研究科は平成3年度に発足して以来27年目を迎えることになりました。平成28年度の学位授与者数は課程博士22名（内、外国人留学生11名）、論文博士3名でした。本年度の入学者は、定員20名に対して4月入学は11名（内、外国人留学生6名）、秋季入学は15名（内、外国人留学生15名）の26名です。現在、本研究科には、総数95名の学生が在籍しており、外国人留学生在が43名（中国、インドネシア、タイ、バングラデシュ他、計11か国）で、過半数を占めています。



本年度からの新しい取り組みを2点紹介致します。

1点目は、インド工科大学グワハティ校とのジョイント・デイグリー・プログラムについて検討を開始致しました。平成31年度から「食品工学・バイオテクノロジー」分野の国際連携専攻を設け、学生の受け入れ開始を目指し、本年度から岩本悟志教授を配置し、カリキュラムなどの諸制度を修士課程と連携を図りながら準備しています。

第2点目は、広く海外からの留学生を受け入れるために、日本語を使うことなく修了に必要な単位を取得できる新しいカリキュラム「英語特別プログラム」を本年度の秋季入学から開始す

各務同窓会報

ることになりました。このプログラムは、出願資格としてTOEICなどの英語能力試験に一定の条件を課し、各専攻若干名の募集人員で入試を実施致します。また、本学の支援を得て、このプログラムを履修する留学生には、入学試験の検定料、入学料及び3年間の授業料を免除致します。また、リサーチ・アシスタントを重点的に配分し、研究に専念できる環境を提供することによって、将来の農学系分野における研究者のリーダーを育成すべく、優秀な留学生の受け入れを目指しています。

次に、本研究科が企画している学術イベントについて3点紹介致します。

1点目は、本年度も岐阜大学重点講座（環境）を10月21日に開催致します。本年度のテーマは「野生生物と環境」で、3名の講師をお招きし、絶滅危惧種、外来生物、獣害についてご講演頂きます。

2点目は、海外修了生のフォローアップ、共同研究の創出、研究ネットワークの構築を目指して、海外での研究ワークショップを2回開催する予定であります。7月17日にはインドネシアのアンダラス大学で「ポストハーベスト工学」、11月27日には

ベトナムのチュイロイ大学（ハノイ水利大学）で「アジアの農業と水管理」について研究ワークショップを開催し、現地及び本研究科の大学教員や現地企業の研究員による研究紹介と情報交換、現地企業の視察などを通じて、新しい共同研究の創出を目指した企画であります。

3点目は、8月28日～29日に岐阜大学にて「持続的な農業生産を目指した土壌管理」と題して国際シンポジウムを開催し、国内外の修了生や研究者による研究発表、同時に本研究科と修士課程の学生のポスター発表を行います。さらに、2月27日～28日（予定）にも岐阜大学で国際シンポジウムを予定しています。開催テーマについては公募制を採用し、本研究科教員から提案のあったテーマの中から、緊急性、重要性、実現性を考慮して決定する予定です。海外で活躍する修了生のフォローアップと研究ネットワークの構築を目指した企画であります。

最後になりましたが、中野専任教員の尽力により、本研究科のホームページをリニューアル（<http://www.ugsas.gifu-u.ac.jp/>）致しました。「国際協働により世界の農業研究に貢献します」をキャッチフレーズにし、英語版

も充実させ海外にも広く情報発信する内容に生まれ変わりました。是非一度、ご覧ください。最後に同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。

（千家正昭）

◆◆◆ 連合獣医学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜びを申し上げます。本年3月まで研究科長としてお務めいただきました石黒直隆先生のご退職を受け、4月から研究科長を拝命いたしました。さて、昨年度の学位授与者数は、課程博士は27名および論文博士は6名でした。本年度の入学者は、24名ですが、秋入学者もこれらに加わりますので、概ね例年同様の新入学生を受け入れることができました。



連合獣医学研究科の改編も具体的な方向性が明らかとなりました。独自で新研究科を開設する帯広畜産大学、共同専攻の新研究科を開設する岩手大学と東京農工大学は、平成30年度から

の新研究科の学生募集が開始されます。また、岐阜大学は鳥取大学との共同専攻による新獣医学研究科の平成31年度の設置に向けて準備が進められているところです。従いまして、本年度の秋入学者が、4大学5連携機関で受け入れる最後の学生となり、平成30年4月は岐阜大学配置学生のみを受け入れることとなります。これら新入学生と在学生の全てを修了させるまで、基幹校としてこれまで同様、社会に貢献する人材の育成に務めてまいります。このように、獣医学に係る大学院教育は大きな転換期を迎えておりますが、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

（浅井鉄夫）

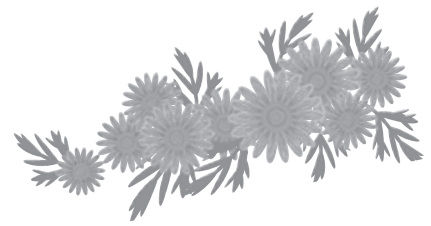
◆◆◆ 附属岐阜フィールド科学教育研究センター

各務同窓会員の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて本年度は、岐阜大学柳戸農場の圃場に岐阜県中央家畜保健所が移転しました。同家畜保健所内には、岐阜大学家畜衛生地域連携教育研究センター（GeFHA）が開設され、その技術職員として岐阜大学OGの新津詩織さんが着任しました。通常は柳戸農場の家畜管理や教育支援を行い、GeFHAの業務も行う形で勤務して頂いています。またこの1月には、柳戸農場から半径10km圏内の養鶏場で鳥インフルエンザが発生し、防疫対策の強化に迫られました。このような家畜防疫の点でも今後隣接する家畜保健所と密接な連携を図りたいと考えています。

柳戸農場と美濃加茂農場では、これまで同様に教育研究のより一層の支援と農場の公開活動、生産物の販売強化を行っています。柳戸試験林では施設整備が進み、また位山演習林では実習用テキストの制作を通じて、全学的な実習教育への貢献が図られています。今後とも同窓の皆様方のご協力ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（大場伸也）



◆動物病院

各務同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年度も共同獣医学科の前田貞俊が動物病院長を引き続き務めさせて頂いております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

病院現況についてお知らせいたします。内科を担当されておりました北川均先生が定年退職され、助教を1名新たに採用しました。動物病院の常勤教員は任期付き教員を含めて現在20名となります。今後も、診療、教育および研究のレベル向上に努

めていきたいと考えております。

平成28年度の診療件数ですが、約9,000件と平成27年度とほぼ同数でした。収入では、10校ある獣医系国立大学の中では上位3番目、公立大学および私立大学を含めた獣医大学16校の中では上位6番目となります。今後も、岐阜県、愛知県および三重県を中心とする地域獣医療ネットワークをさらに強化させ、中部地区における基幹病院としての責務を果たしていく所存です。

今後も同窓の皆様方のご協力とご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

(前田貞俊)

◆野生動物管理学 研究センター

各務原同窓会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

まずは、岐阜県による寄附研究部門の「鳥獣対策研究部門」に関するご報告です。同部門は5年の設置期間を終え平成29年3月に終了となりました。しかし、調査研究や人材育成に関わる諸活動を評価いただき、後継として「寄附研究部門…鳥獣管

理の教育と普及」が設置されることになりました。同時に森元萌弥特任助教が退職され、池田敬特任助教が着信いたしました。なお、「鳥獣対策研究部門」の終了にともない、5月にはその成果等の審査を目的に外部評価委員会が開催されました。成果の概要や評価結果は、本センターのサイト (<https://www1.gifu-u.ac.jp/~rcwm/endowed.html>) にて公表されておりますので是非ともご覧ください。

新たな寄附研究部門の名称に「教育・普及」を含めたのは、従来通りの研究は継続しながらも「人材育成面での活動を強化する」との方針によりです。この方針にしたがい、7月には「シンポジウム…これからの森林づくりとシカ対策」を開催するとともに、年8回の予定で「連続講座…野生動物を知る」も始められております。

また人獣感染症研究部門では、今年度も北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターとの委託契約を締結し、狂犬病等をテーマに特定共同研究「難治性人獣共通感染症の診断・予防・治療法の研究開発」を継続しています。以上のとおり、センター員一同、鳥獣対策に関わる多様な取り組みを精力的に展開しており

ます。同窓の皆様には引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(鈴木正嗣)

◆共同獣医学教育開発 推進センター

鳥取大学との共同獣医学科が設置5年目を迎えました。1年生から4年生まではコア・カリキュラム科目群と呼ばれる獣医学に必要不可欠な内容が講義科目として開講されてきました。

いる状況にあり、実際に業務を経験することによりこの分野に興味を持つてもらうこともこの科目の狙いとしています。この実習では、学生の受け入れについて、地方自治体に勤務している岐阜大学の卒業生に大変お世話になっております。この場を借りて御礼申し上げます。引き続き、同窓生の皆様のご協力とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(海野年弘)

今年度からは、獣医学共用試験に合格した学生がより実践的な総合参加型臨床実習を受講するように、さらにアドバンスト科目群と呼ばれる大学ごとに特徴的な獣医関連科目が開講されていきます。岐阜大学・鳥取大学の共同獣医学科では、アドバンスト科目群の一つとして「家畜衛生・公衆衛生インタシンツプ実習」が今年度に開講されます。この科目は、国あるいは地方自治体において、家畜衛生および公衆衛生分野に関わる公務員獣医師の業務を実際に体験することにより、獣医師が果たす役割と責任を認識することを目的としています。地方の公務員獣医師は依然として不足して



教員の異動

定年退職

H29.3.31
山内 亮
応用生命科学課程H29.3.31
小見山 章
生産環境科学課程H29.3.31
宮川 修一
生産環境科学課程H29.3.31
清水 英良
生産環境科学課程H29.3.31
石黒 直隆
共同獣医学科H29.3.31
北川 均
共同獣医学科H29.3.31
荒井 聡
生産環境科学課程(福島大へ転出)
昇任H28.11.1
海老原 章郎
応用生命科学課程H29.3.1
岩本 悟志
応用生命科学課程H29.3.1
岩本 悟志
応用生命科学課程H29.4.1
中川 寅
応用生命科学課程H29.4.1
山本 朱美
生産環境科学課程H29.4.1
八代田 真人
生産環境科学課程H29.4.1
猪島 康雄
共同獣医学科H29.4.1
小林 佑理子
生産環境科学課程H29.4.1
山根 京子
生産環境科学課程H29.4.1
安藤 正規
生産環境科学課程H29.4.1
乃田 啓吾
生産環境科学課程H29.3.1
岡田 彩加
共同獣医学科H29.4.1
李 命美
生産環境科学課程H29.4.1
西山 竜朗
生産環境科学課程H29.4.1
橋本 美涼
応用生命科学課程H29.4.1
島田 敦広
応用生命科学課程H29.4.1
山内 恒生
応用生命科学課程H29.4.1
今泉 鉄平
応用生命科学課程H29.4.1
田中 貴
生産環境科学課程H29.4.1
片畑 伸一郎
生産環境科学課程H29.4.1
小畠 結
共同獣医学科H29.4.1
池田 敬
応用生命科学課程H29.8.1
再採用
森部 絢嗣新任教員の
あいさつ

岡田 彩加

2017年3月1日付で食品環境衛生学研究室の助教に着任いたしました岡田彩加と申します。岐阜大学卒業後、一度は臨床の道へと進んだものの、卒業研究で知ったウイルス学の面白さ、高校生の頃から興味があった遺伝子工学を駆使した研究に後ろ髪を引かれ、博士課程進学を決意いたしました。2016年に岐阜大学大学院連合獣医学研究科にて博士号を取得し、その後、短い期間ではありましたが、名古屋の病院に併設する臨床研究センターにて博士研究員としてレトロウイルスの研究に携わりました。今春、ご縁に恵まれたことを非常に嬉しく感じております。今後は、食品や環境の衛生に関わるような病原微生物を対象として研究を進めていきたいと考えております。「食」と「環境」という人の健康を守るための壮大なテーマに関して、獣医学的な視点での研究・教育に携われること



乃田 啓吾

平成29年3月1日付で応用生物科学部生産環境科学課程環境生態科学コースに助教として着任しました。平成22年に東京大学にて博士(農学)を取得後、ポスドクとして茨城大学農学部で1年半、東京大学生産技術研究所で5年半を過ごしました。岐阜には、10年前に一度学会で来たことがあるだけだったので、着任前には不安な面もありましたが、教員や事務職員

各務同窓会報

学生や卒業生の方々のサポートのおかげで、充実した岐阜大学ライフを満喫しております。

私が専門とする農業・農村工学（農業土木）は、エネルギーや物質循環のような自然科学から、社会やコミュニティの持続性といった人文科学に渡る、多様な研究分野と深く関連し、構成されています。また、常に社会のニーズと向かい合うことで、学界のみならず、広く社会とのつながりによって支えられています。現在、世界は持続可能な社会の構築に向けた努力を続けていますが、その中で研究・教育分野には超学際化（＝学術分野の統合＋実社会との連携）が求められています。農業・農村工学は超学際化の推進におけるハブとなる可能性を秘めており、それを実現することが私の役割だと考えております。

まだまだ未熟者ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



島田 敦広

平成29年4月1日より応用生物科学部応用生命科学過程分子生命科学

科学コースに助教として着任しました、島田敦広と申します。もともと生き物が好きで農学部に入學しましたが、大学で勉強を重ねるうちに生命現象を駆動しているタンパク質に興味の対象が移っていき、気付けば酵素科学や構造生物学が専門になっていました。

X線結晶構造解析法は手法としてかなり普及し、多くのタンパク質の立体構造が決定されてきました。また、従来のX線に比べて短パルス高強度のX線自由電子レーザーを利用することで、静的な構造だけでなく動的な構造の解明が可能となり、これまで誰も見たことのない遷移状態の構造情報まで得られるようになってきています。こうした背景から、多くのタンパク質立体構造情報が蓄積され、立体構造情報に基づいて生命現象を化学反応として理解することが可能な時代になりつつあると思います。だからこそ、生物学にとどまらない今までの以上に幅広い知識と考える力が必要とされることも明らかです。その点、岐阜大学応用生物科学部には個体レベルから分子レベル、天然物や化合物など広範な専門性を有する先生方がおられるため、積極的にコミュニケーションをとりながら研究を推進していく所存です。また、学生にも授業や研究を通して考える

力の大切さを伝えられればと思っています。至らぬ点多々あるとは思いますが、ご指導ご鞭撻いただけますこと、宜しくお願い申し上げます。



橋本 美涼

平成29年4月1日付けで応用生物科学部分子生命科学コース生物化学研究室に助教として着任致しました。

私は平成24年に筑波大学生物資源学類を卒業後、筑波大学院5年一貫博士課程ヒューマンバイオリジー学位プログラムに進学し、今年の3月に博士号を取得後、すぐに岐阜に参りました。

博士論文のテーマは「中枢神経系発達過程におけるアルギニンメチル化酵素PRMT1の機能解析」です。これまで一貫して、遺伝子改変マウスを用いて、遺伝子の機能を動物個体レベルで調べる基礎研究に携わって参りました。今後は新しい手法を積極的に取り入れ、脳神経系の発生メカニズムを明らかにすべく研究に取り組む所存です。

今回、御縁を頂きました岐阜大

学では、様々な分野の先生が一つのキャンパスに集合していることがメリットだと思います。また、現所属研究室では、幅広いスケール（原子・分子・個体レベル）を解析するための技術とスタッフに恵まれています。この強みを最大限に活かし岐阜ならではのオリジナリティー溢れる研究を共同で作りに上げていきたいと思っております。一方、学生時代の留学経験を生かし、留学生や日本人留学希望者の支援活動において役立てればと考えております。社会人、教育者、岐阜県民として1年目の未熟者ではありますが、今の初心を忘れずに、本学の教員として貢献できるように全力で頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。



山内 恒生

平成29年4月に応用生物科学部・応用生命科学課程・天然物利用化学研究室内の助教に着任致しました。私は岐阜市の長良で幼少期を過ごしました。小学校の遠足で初めて岐阜大学を訪れ、カモが列をなして応用生物科学部棟の前の道を横切っていたのを覚えてい

ます。牛や豚を見学して周っていたので、ここは動物園か何かかと思っていました。今思えばここが岐阜農場だったんだと納得がいきます。

その約15年後、岐阜大学応用生物科学部を卒業し、さらに進學して修士、博士の学位を取得致しました。博士課程ではインドネシア産薬用植物の活性成分の探索と作用機序の解明を目指して研究を行いました。インドネシアでは伝統生薬を日常的に使い、体調管理に役立っています。それらの効能の多くが先人たちの経験や噂によるもので、科学的な根拠があるわけではありません。薬用植物の成分とその生理活性を調査することで、その活性機構や新たな可能性を探ってきました。

学位取得後、日本学術振興会の特別研究員を経て、同海外特別研究員としてテキサスA&M大学に留學しました。再び岐阜大学に戻ってきたとき、相変わらずカモはグループになって道を歩いていました。これまでに培ってきた岐阜大学の伝統や地域密着型を守りつつ、世界に目を向けた研究や教育に少しでも貢献できるよう、日々努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

各務同窓会報



今泉 鉄平

平成29年4月3日付けで応用生物科学部食品生命科学コース食品素材科学研究室に助教として着任いたしました今泉鉄平と申します。私は静岡県静岡市で育ち、千葉大学園芸学部を卒業、千葉大学大学院園芸学研究科博士前期課程を修了後、九州大学大学院生物資源環境科学府へ進学し、九州大学より博士号を拝受致しました。博士課程修了後は、日本学術振興会特別研究員(PD)を経て、現職に至ります。

私の研究では主に、冷凍野菜製造時の前処理として行われるブランチング工程において、材料野菜の物性(力学物性、熱物性、電気物性)や組織構造の変化について明らかにしていくことで、製品品質向上やプロセスの効率化に資する知見獲得を目標としております。九州大学では、これに加え、数値計算力学を用いたシミュレーションや青果物の鮮度保持に関する研究についても携わらせていただきました。また、昨年度は半年間ポーランド科学アカデミー農業物理学研究所(UAPS)にて在外

研究を行い、ラマンマッピングによる細胞周囲のペクチン分布可視化や原子間力顕微鏡を用いたペクチン構造の解析などの手法を学びました。今年度からは、岐阜大学にて熱意ある先生方とともに働かせていただくこととなり大変光栄に思っております。

まだまだ未熟者ではありますが、岐阜大学の教育・研究に貢献できるように日々精進致します。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



李 侖美

平成29年4月1日付けで応用生物科学部応用植物科学コースに准教授として着任いたしました李侖美(イ ユンミ)と申します。

韓国の京畿道東豆川市で生まれ育ち、建国大学の農業経済学科を卒業しました。大学4年次の7月から1年半の間、(社)協同組合研究所に勤務した後に、来日しました。

日本では、東京大学大学院農学生命科学研究科・農政学研究室で修士・博士課程を修了しました。その後、帰国して8か月ほど民間

の農業関係のシンクタンクに勤めましたが、再来日し、(財)日本農業研究所の研究員を5年、秋田県立大学の助教を4年7か月務めて現在に至っております。

修士課程から一貫して、日本における土地利用型農業の構造問題、すなわち、担い手の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加という問題を解決するための方策の一つとしての農協(JA)による農業経営が地域農業に及ぼす影響について研究を行っています。また、関連研究として農産物直売所を通じて地域農業の構造変化、新規就農研修事業の実績と独立就業実態、耕作放棄地の再生事業と営農展開に関する研究などを行ってきました。

私が担当している農村経営マネジメント学研究室は、農業・農村の振興を目指して、地域の実態に即した「農業経営」「政策」「制度」のあり方について研究することを目的としています。そのために、濃密な現地実態調査を実施しますが、学生のみならず積極的に現場訪問や聞き取り調査を通じて、人や自然とのふれ合いを大切にしながら、論文を完成させていく充実感を感じることができるよう指導していきたいと思っています。

また、これまでは日本全国を調

査対象として研究を進めてきましたが、今後は岐阜県農業に一方の軸足を置きながら、その発展と振興に貢献できるように邁進していくつもりです。

今後のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



田中 貴

平成29年4月1日から応用生物科学部生産環境科学課程応用植物科学コースの作物学研究室に助教として着任しました。昨年度に、京都大学大学院農学研究科(農学専攻)で学位を取得したばかりで、この一年で先生と呼ぶ立場から、呼ばれる立場になりました。これまで、耕地生態系における物質循環の不均衡を是正しつつ、作物生産の向上を実現するために、作物栽培の視点から中国雲南省でのフィールド研究を実施してきました。通算で3年間滞在していた中国での研究には一区切りを打ち、今年からは、岐阜県の農業が抱える問題を解決すべく、県、JA、そして、生産者の方々と協働しながらの作物生産の多収・高品質化を目指したフィールド研究に取り

組んでいます。

学部から博士課程まで京都大学でしたが、学部時代は、山岳部に所属していました。何故山岳部の話をするのかと言いますと、京大山岳部には、岐阜大学と非常に縁の深い大先輩がいらっやいます。岐阜大学第4代学長、今西錦司先生です。今でも大学図書館内には今西文庫というコーナーがあり、山岳部の部室にあるような山の本から生物学、岐阜県の地域研究に関する本、種類雑多な本が閲覧できます。たびたび今西文庫に訪れ、自身の研究分野とは関係のない書籍も読みながら、刺激を受けています。新しいフィールドを開拓するところから、私の岐阜での教育研究活動がスタートしたばかりですが、今後とも皆様のお力添えを賜りたく、宜しくお願い申し上げます。



片畑伸一郎

平成29年4月1日付けで応用生物科学部 生産環境科学課程 環境生態科学コースの助教として着任いたしました片畑伸一郎と申します。和歌山県で生まれ育ち、大学の間は静岡で過ごしました。そ

各務同窓会報

の後、岐阜、つくば、浜松と勤務地を転々としておりましたが、縁あってこの春より岐阜大学でお世話になることになりました。

専門分野は植物生理生態学で、植物と環境を繋ぐ生理機能から植物の生き様を解き明かすことを目的に研究を進めています。学生時代は森林を対象にフィールドワーク中心の研究生活を送っていましたが、森の主役である林冠構成種ではなく、森の林床をかざる脇役の多様な生活に興味を持ち、上層木のフェノロジーが作り出す環境変化に対する林床植物の光合成順化が主な研究テーマでした。当時、静岡で生活していたのですが、フィールドはなぜか新潟県の苗場山にあり、片道300kmの道のりを発電機などの荷物を満載した車で8時間かけて通っていました。今となつては良い思い出です。その後、某研究所においてポスドクをしていた際、分子生物学を学ぶ機会を頂き、遺伝子組換えによる花粉発生制御技術の開発プロジェクトに携わることができました。

研究分野を大きく変更することになりましたが、研究の幅は広がったと思っています。今後は、分子生物学と生理生態学の両面から植物の機能に迫り、その研究成果を森林生態系の保全、森林管理や林木育種の分野に還元していきたいと考えています。

まだまだ未熟ではございますが、本学の研究、教育に貢献できるよう精一杯努力してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



西山 竜朗

本年4月1日付けで応用生物科学部生産環境科学課程環境生態科学コース准教授に着任致しました。私は、平成7年に京都大学農学部を卒業し、その後、同大学院を経て平成9年から岡山大学環境理工学部、平成18年から愛媛大学農学部に通じて農業土木を専攻し、農業用ダムを専門としています。

基礎岩盤の破壊機構解明を主要研究課題としています。この課題は70年前に海外で起こった有名なダム決壊事故が契機となつて盛んに取り上げられてきました。今や半ば古典的との感もある一方で、科学、技術とも発展している現在も満足な解決には至っておらず、関係者の間では深い興味を持たれ続けています。これまでに進めてき

た模型実験や電子計算機による数値解析を進展させ、改めて集中的に解析に取り組み、意義ある知見を整理するに至りたいと思います。これまでに所属学会や関係省庁の委員会を通して、農業用ダム事業の現場に触れる機会に恵まれました。国内のダムでは新造の時代から保全管理の時代に遷り、さらに昨今の地震被害から明らかになつた問題も加わり、産・官・学の全面から新たな課題への努力が日々、注がれています。大学の役割として、技術を担う人材の育成とともに、自身もその一人材として貢献できるよう、努めて参りたいと思います。本会各位におかれましては何卒ご指導ご鞭撻、ご支援方、宜しくお願い申し上げます。



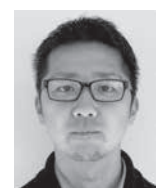
小島 結

平成29年4月1日付けで応用生物科学部共同獣医学科獣医内科学研究室の助教に着任いたしました。私は岩手大学を卒業後、民間病院にて小動物臨床に携わる中で、臨床研究の必要性を感じました。そこで、岐阜大学大学院連合獣医学研究科に進学し、平成29年

3月に博士号を取得して現職に至りました。岐阜大学は豊かな自然環境の中に附属施設が充実しており、勉学に励むのに理想的な環境だと思います。このような素晴らしい環境で大学の研究および教育に従事でき大変光栄です。

私はこれまで致死性の神経変性疾患であるイヌの変性性脊髄症の病態解明を行ってきました。着任後からは、これまでの研究成果に基づいた変性性脊髄症の新規治療法の確立を目指し研究に取り組んでいます。また、臨床系教員として附属動物病院の内科の診療を担当しております。本学附属動物病院には日本国内でも数カ所しかない電気生理学的検査を実施する設備があります。電気生理学的検査の実施により、これまで診断が困難であった末梢神経疾患、神経筋接合部疾患および筋疾患の診断が可能となります。今後は電気生理学的検査を用いた臨床研究を進めるとともに、幅広い獣医療の知識と技術を習得し、高度な医療を提供できるよう精進いたします。

岐阜大学の研究、教育および診療に少しでも貢献できるよう精一杯努力していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



池田 敬

2017年4月から応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター「寄附研究部門「鳥獣管理の教育と普及」」に特任助教として着任いたしました。

私は2015年に東京農工大学大学院連合農学研究科より博士号を拝受しました。博士号取得後は、北海道大学地球環境科学研究院のポスドクとして1年間、国土交通省国土技術政策総合研究所の研究員として1年間研究に取り組んできました。

私はこれまで北海道に生息するエゾシカを対象として、赤外線センサ・カメラを利用し、エゾシカの生息数推定、群れ構成の把握、日周活動性の評価などの研究に取り組んできました。こうした研究の中で、狩猟や捕獲によるエゾシカへの影響や、他の哺乳類の日周活動性の評価なども行ってきました。

私が着任した寄附研究部門では、加害鳥獣のモニタリング調査や対策事業の効果検証などの科学的データの取得・分析に基づく、効果的施策の企画立案に対する支



援を目的としており、これまで行ってきた赤外線センサ・カメラによる研究が役立つと思っています。

岐阜県は縁もゆかりもない土地で不安を抱えながらのスタートになりますが、岐阜県には二ホンジカだけではなく、イノシシ、ツキノワグマ、カモシカ、サルなどの様々な哺乳類が生息しており、それぞれで地域住民と問題を抱えております。その問題を少しでも解決できるように日々精進いたします。皆様のご指導・ご鞭撻を賜りながら、精一杯努力してまいります。よろしくお願い申し上げます。

教員・旧教員の受賞

長岡 利 教授	2016年度 第21回安藤百福賞 優秀賞	平成28年12月26日
山本 義治 教授	日本農芸化学会2017年度大会トピック賞	平成29年4月4日
今村 彰宏 准教授	平成29年度日本糖質学会奨励賞	平成29年7月19日
清水 将文 准教授	7th International Conference Nanomaterials Best Post Award	平成29年9月15日
景山 幸二 教授		
荒井 聡 名誉教授	食農資源経済学会 学術賞	平成29年9月30日

※本成果は平成28年度岐阜大学活性化経費（研究）【人文社会系活動支援】の支援を受けたものです。

退職者記念事業報告

山内 亮

応用生命科学課程食品生命科学コースの山内亮教授は、平成29年3月31日をもって定年退職されました。

先生のご退職にあたり、最終講義が平成29年2月14日（火）13時より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて「脂質の酸化と抗酸化物質―ビタミンEを中心に―」と題して行われました。

現職の教員や学生、遠方からも多数の卒業生や多くの関係者の皆様が駆けつけ、立ち見があるほどの盛大な最終講義となりました。最終講義では、先生のご研究の話、教育の話そして学部運営と研究の両立について、データをもとに丁寧な解説を行われました。

最終講義に引き続き応用生物科学部第一会議室にて茶話会が開催されました。茶話会では、花束贈呈、記念品贈呈、そして食品素材科学研究室の現役学生

の手作りサプライズ企画などがありました。終始、和やかで暖かい雰囲気ではすすみ、山内先生は、多数の先生方や懐かしい卒業生の皆さんと楽しくご歓談されて、心から喜んでおられました。

現在、山内先生は、梶山女学園大学の非常勤講師を始め食品科学工学会委員などを精力的に務められ、お忙しい日々を過ごされています。山内亮先生の今後のご活躍と、益々のご健勝をお祈りして、事業報告とさせていただきます。（岩本悟志）

小見山 章

生産環境科学課程環境生態科学コースの小見山章教授は、平成29年3月31日をもって定年退職されました。

先生には、昭和55年4月に着任されて以来の研究教育および学部・大学運営に尽力された多大な功績により本学名誉教授の称号が授与されました。

退職記念事業として平成29年2月1日（水）午後1時より応用生物科学部101多目的ホールにおいて「マングローブ林の35年間」と題する最終講義が行われました。在学生や教職員はもとより、多数の卒業生や森林林業関係者の皆様が駆けつけ、盛大な最終講義となりました。

また、平成29年4月22日（土）にはホテルリソル岐阜にて、退職記念祝賀会が開催されました。各地から卒業生が集い、先生ご自身で作成されたスライドショーで、思い深い日々を卒業生と振り返り、語り合いながら楽しい時を過ごしました。

ご退職後も精力的に研究教育活動に携わり、タイ王国チュラコンン大学で5ヶ月間、招聘教授として海外の学生にも教育研究指導をされました。現在は、岐阜大学フェローとして、引き続き大学での教育活動に従事されています。今後の先生の益々のご健勝とご活躍を祈念して、事業報告とさせていただきます。（加藤正吾）

石黒 直隆



共同獣医学科食品環境衛生学研究室の石黒直隆教授は、平成29年3月31日をもって定年退職

されました。先生は食品環境衛生学研究室の初代教授としてご着任後、獣医学教育と研究に精力的に取り組まれ多くの実績を残されました。また、岐阜大学大学院連合獣医学研究科の研究科長として、大学院教育の充実と研究の活性化、人材育成にご尽力されました。その多年にわたる教育および研究におけるご功績により本学名誉教授の称号が授与されました。

2月28日に応用生物科学部101多目的ホールで行われた、「研究で学んだこと、つたえたいこと」と題した最終講義には、多くの教員、学生、そして卒業生が参加し、石黒先生のご多岐にわたる興味深い内容のご講義を拝聴いたしました。

講義終了後には都ホテルにて退職記念祝賀会が開催され、最終講義に参加できなかった卒業生、関係者も遠方から集まり盛会となりました。宴席では石黒先生の写真を集めたスライドが上映され思い出話に花が咲きました。先生には祝賀会参加者

および有志よりお祝いの品として、クリスタル置時計をお贈りいたしました。退職記念祝賀会にご参加頂きました皆様方には心から御礼申し上げます。

現在石黒先生は岐阜大学名誉教授、総合研究大学院大学の客員研究員として研究活動が続けられており、お忙しい日々を過ごされています。飽くなき研究への情熱に改めて敬意を表すとともに、今後益々のご健康とご活躍を祈念して、事業報告とさせていただきます。

(猪島康雄)

北川 均



共同獣医学科獣医内科学研究室内の北川均教授は平成29年3月末をもって定年退職されました。先生は昭和56年に岐阜大学農学部に助手として着任され、その後、講師、准教授と昇任され、平成13年から教授としてご活躍されました。先生は犬糸状虫の病態発生および治療に関する研究、黒毛和牛の尿細管形成不全症の研究など、数多くの研究成果を挙げ、獣医学の発展に貢献されました。

北川均先生の退職記念事業として、平成29年2月28日(火)

に応用生物科学部101多目的ホールにて「イヌもウシもブタも面白い」と題した最終講義が行われ、また平成29年6月11日(日)には岐阜都ホテルにて祝賀会が開催されました。卒業生、在校生、教職員ならびに関係者の方々には多数のご出席を頂き、誠にありがとうございました。

(西飯直仁)



退職のご挨拶

田中 逸夫

私は本年度末をもって定年退職いたします。

これまでご指導ご鞭撻いただきました諸先輩・同僚のみなさんに改めて御礼申し上げます。また、縁あって私が担当した卒論研究・修論研究さらには講義や実習にかかわった卒業生・在校生のみなさんには、期待に十分応えられなかったことを深謝します。私は、九州大学工学部を卒業後同大学の助手として採用され、熱工学、伝熱学、流体力学関係の研究を行っていましたが、昭和六十二年六月に本学部の前身である農学部に講師として採用されました。採用時は農用エンジンの研究をされていた農業工学科農業動力学研究室に所属していましたが、すでに学部改組が決定されていて、生物生産システム学科生物生産制御学講座に移行中でした。そしてこの講座の目玉として「植物工場の研究」があり、この分

退職予定者のあいさつ

野を担当せよとのことでした。熱や光といった分野には近かったため少しはお手伝いできるだろうと思って、最初に手掛けた研究は「温室の熱環境制御」でした。しかし、この分野は植物を相手にすることが前提でしたが、生物学や植物栽培についての知識は全くなくずいぶん頓珍漢なことをした記憶があります。その後四十歳代で人工光型植物工場でのレタス栽培の基礎研究を開始しました。さらに五十歳近くになってワサビの栽培を始める機会があり、この時から現在に至るまでワサビの植物工場栽培を中心に研究を続けてまいりました。この間に私の研究室に所属してくれた多くの学生のみなさんには本当に大いに助けられました。改めて感謝の意を表します。その甲斐あって「ワサビの人工光型植物工場栽培」は世界初(?)として学会や企業で注目され、多くの企業との共同研究や各種講演会での講師を依頼されてきました。

この研究が私のライフワークとなつていと思います。最後の卒論生にもこの研究を手伝って



もらっています。三十年間の本学での生活は本当に幸福・幸運であつたと感じております。有難うございました。

最後になりますが、同窓会員の皆様の益々のご発展とご健康を祈念して挨拶いたします。

退職にあたって



葭谷 耕三

岐阜大学で
教員として40
年も過ごすこ

とができたのは、在職中お世話になった数多くの教員の方や学生さんのおかげと感謝し、誌面をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は昭和53年4月に一般教育(化学)担当の教養部助手として採用されました。もともと大学の教員になろうとは夢にも思っていないでしたが、博士課程1年の時に指導教授から「岐阜大学で公募があり、要件がびつたりなので応募しなさい」と言われ応募したのがきっかけです。赴任した当日は、机と椅子と書棚しかない部屋でぼつんと一人椅子に座って、これから何をしなければいいんだろうと思ひ悩んでいたことを思い出します。教養

退職者記念事業のお知らせ

田中逸夫教授の 定年退職のお知らせ

生産環境科学課程応用植物科学コースの田中逸夫教授は、昭和62年6月に岐阜大学農学部農業工学科農業動力学講座(昭和63年4月より生物生産システム学科生物生産制御学講座に改組)にご着任し、平成14年に教授に昇進されました。平成16年に応用生物科学部に改組後も植物環境制御学研究室の教授として教育研究に従事され、平成30年3月1日をもって定年退職されました。その間に応用植物科学コース長、岐阜フィールド科学教育研究センター長などの要職をご歴任されました。

先生の研究の一つである、「ワサビの人工光型植物工場栽培の研究」は、生態工学会学術賞を受賞しました。また、ワサビだけでなく、植物工場での黒ウコン生産に関しても企業から注目されています。先生は赴任当時、研究室の研究対象を農用トラクターから施設園芸や植物工場に関する環境調節工学へとまったく異なる分野へシフトチェンジされました。このことは、現

在の社会・大学の情勢や卒業生の社会での活躍などを鑑みても英断であつたといえます。

先生のこれまでのご功績に対しては、当方も卒業生一同の一人として心より感謝いたしますとともに、ご退職後も健康に留意され、これまでと変わらずご活躍されることをお祈り致します。なお、先生の意向に沿って特別な最終講義の設定は致しておりません。(嶋津光鑑)

葭谷耕三准教授の 定年退職のお知らせ

応用生命科学課程 分子生命科学コースバイオマス変換学研究室内の葭谷耕三准教授(分子認識化学)は、平成30年3月をもって定年退職されます。

先生は、昭和50年に愛媛大学理学部化学科をご卒業後、広島大学大学院理学研究科博士前期課程(化学専攻)に進学され、同後期課程在学中の昭和53年に岐阜大学教養部に助手として着任されました。昭和61年には広島大学にて理学博士の学位を取得され、同年教養部助教授に昇

任、平成8年には農学部に移任されました。その後、学部改組・職位名称変更を経て、現在に至っております。40年間の長きにわたり本学にご奉職されました。

理学部化学科のご出身ということもあり、本学部では物理化学・無機化学を中心に学部生の教育にご尽力されました。研究室の定例ゼミでは、豊富な識見に裏打ちされたシャープなコメントを頂戴してきました。

先生のご退職を迎えるにあたりまして、深く感謝の意を表するために記念事業を催さねばならないところではありますが、先生の固いご意思を尊重申し上げます。最終講義などの事業を執り行わないこととなりました。先生のご指導の下、研究室を卒業・ご修了された同窓生、さらには教養部時代に厚いご指導を仰がれた皆様方には、誠に申し訳ないこととは存じますが、先生のご意思を最優先させて決定いたしましたので、あしからずご了承くださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、先生から頂戴したご指導に対し深く感謝申し上げますとともに、先生のご退職後のご健康とご発展をお祈り申し上げます。

(寺本好邦)

同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回、優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で、平成19年度に設立されました。平成28年度も、各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学研究科の学生の中から、次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

■受賞者（敬称略）

応用生命科学課程	小川 陽 加
生産環境科学課程	長 屋 諒
獣医学課程	牧 野 真 幸
応用生命科学専攻	吉 岡 優
生産環境科学専攻	藤 井 健 生

小川 陽 加

長 屋 諒

この度は同窓会長賞受賞というとても光栄な賞をいただき本当にありがとうございます。お世話になった家族や先生、友人から祝福の声をかけていただいています。今回の受賞を実感しています。この大学生活の四年間は長いようでいて短いものでした。特にこれまで見守ってくれた母親には感謝の気持ちでいっぱい입니다。私が勉強や実験ができなくて悩んでいた時、母親はいつも励ましの言葉をかけてくれて、心の支えになってくれました。家族に元気に大学生活を過ごしていると伝えられるように、これからも一生懸命勉強に勤しんでいきたいです。

この度は同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき、誠に光栄に存じます。熱心にご指導いただいた先生方、日々支えてくれる家族、切磋琢磨した友人達に心から感謝しております。

岐阜大学で学んだ4年間は、一生忘れることのない刺激のある日々でした。現在は、地元の農協で、農業に関連する仕事をしております。岐阜大学で学んだことを最大限に活かしながら、地域農業の発展と農業者の所得増大に貢献していきたいと思っております。

牧 野 真 幸

この度は、栄えある同窓会長賞を賜り、大変光栄に存じます。このような栄誉は私には縁のないものと存じていましたの

で誠に嬉しく、拝謝申し上げます。これも常々熱心に御指導いただいた先生方や先輩方、ともに学び遊んだ友人達、家庭を支えてくれた妻や子といった多くの方々の方々の力添えの賜物だと、心より感謝しております。

岐阜大学では、獣医師という専門職に必要な知識や技術の他にも様々な経験を得ることができました。今後も大学で得たことを活かし、多くの人たちとの絆を大切にして誠心誠意努める所存です。

吉 岡 優

この度は、思いもよらず同窓会長賞という素晴らしい賞をいただき、誠に嬉しく思います。これも熱心に指導を賜りました先生方、苦楽を共にした同期や先輩達、そして支えてくれた家族のおかげです。心より感謝申し上げます。

修士課程では企業との共同研究や学会発表、論文投稿、研究機関へのインターンシップなど多くの経験をさせていただきま

した。忙しくも毎日が充実していてあつという間の2年間でした。この同窓会長賞を励みとし、今後は社会人として地域や社会に貢献できるよう努めて参ります。

藤 井 健 生

この度は、同窓会長表彰という素晴らしい賞を頂き、誠に光栄に存じます。この賞は周囲の支えの賜物であると思っております。特に、私に厳しく、そして優しくアドバイスしてくださった先輩方に深く感謝申し上げます。同窓会長表彰を頂けたことで、お世話になった先輩方に多少の恩返しできたかと存じます。大学院卒業後は社会人として、これまでに培ってきた経験を仕事に活かしますよう精進し、岐阜大学各務同窓会の名に恥じぬような働きぶりを見せたいと思います。

最後になりましたが、このような賞を頂き、改めてお礼申し上げます。

吉寄基金

平成28年度受領者報告

ナノセルロース複合材料の創製と機能発現

寺本 好邦

吉寄清己様のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。私は平成26年11月に、早川課程長（当時）のお取り計らいで、吉寄様にお目にかかって研究概要をお話しすることができました。関西ペイントにお勤めだった吉寄様に、塗料分野にも応用可能な私の研究テーマへのコメントを頂けた嬉しい機会でした。その後も、「漆の塗膜はなぜ強いのか?」「日経新聞に掲載されたセルロースナノファイバー（CNF）の前途はどうなのか?」といった質問のFAXを頂き、やり取りが続きました。吉寄様の旺盛な知的好奇心に、いつも敬服しておりました。

平成28年度のご支援のおかげで、「CNFを生体関連物質でコーティングして銅ナノ粒子を担持し、酸化を抑制してあたか

も貴金属のナノ粒子のように活用できる手法」を見出すとともに、「CNFによる生体関連物質の安定保蔵とCNFをインクベースとしたペーパーマイクロ流体診断デバイスの構築法」を確立しつつあります。これらの研究を、それぞれ現M1鬼頭要さん・現M2村瀬璃奈さんが担当し、3月の日本木材学会大会では彼らの発表に対して賞を頂きました。村瀬さんは来年の日

本化学会での招待講演が決まっています。今後も、学生さんともども、岐阜大学発のバイオペー

C19吉寄清己研究支援寄附金の平成29年度受領者

石田 秀治

昭和19年9月に農芸化学科を卒業され、平成19年度から「吉寄清己研究支援寄附金」として、応用生命科学課程教員の研究を支援して下さっていた吉寄清己氏が、平成29年4月22日に逝去されました。これまでの篤志に感謝申し上げるとともに、衷心よりご冥福をお祈りします。ご

遺族様から、今後とも援助を継続して頂けるといふ吉寄様のご遺志を伺い、本年度も本研究支援寄附金の受領者の選考を進めさせて頂きました。

本年度は、稲垣瑞穂助教の「母子間情報伝達としてのミルクの役割解明に向けた微量解析技術の構築」と、今泉鉄平助教の「乾燥工程が富有柿のナノ・マイクロ構造に及ぼす影響」に、それぞれ500,000円のご支援を頂くことになりました。両先生には、吉寄様が望んでおられる「応用生命科学課程の名声を高める研究」にご尽力頂ければと思います。

吉寄清己氏のご逝去を悼み、永久のご功績に感謝

早川 享志

「C19吉寄清己研究支援寄附金」として長年にわたって本学部応用生命科学課程（旧「食品生命科学課程」）教員へ研究支援を続けてこられました吉寄清己氏が本年4月22日に逝去されました。ここにそのご冥福を祈ると共に、そのご功績に対して衷心より感謝申し上げます。吉寄清己氏は昭和19年に岐阜農林専門学校・農芸化学科を卒

業された後、関西ペイント（株）に入社され、60歳定年退職後は日本シルバーボランティアズに塗料技術専門家として登録され、79歳まで中国各地の国営塗料工場に行かれ、中国の技術開発に貢献してこられました。

本同窓会報第87号に掲載されました古田嘉彦応用生物科学部長の「母校の歴史的・社会的節目の課題」という記事をご覧になった吉寄様から、「関西ペイント時代に得た同社株の配当金から、食品生命科学課程の目玉研究に、毎年100万円を提供したい。」というお申し出を中村征夫課程長にお話頂いたのは平成19年のことでした。

昭和24年に旧専門学校等を母体に発足した新制国立大学の教育研究環境は劣悪なものでしたが、昭和55年頃までは校費研究費でなんとか研究ができる状況でした。しかし平成年代に入ると、「研究費の重点配分」という美名の下に、競争的資金である科学研究費の拡大と引き換えに校費研究費は削減され、「産学協同研究」が声高に叫ばれるようになりました。「産学協同研究」と言っても、日本の産業界が資金提供する研究は、本来ならば企業内で行うべき商品開発的な研究、いわゆる「ひも付

き研究」が多く、基礎研究の発展を広く支えることは出来ませんでした。平成16年に国立大学が法人化された頃には、国立大学では校費研究費だけで研究することが難しい状況になっておりました。吉寄様から研究費提供のお申し出があったのはまさにそのような状況の中でした。食品生命科学課程ではこの寄付金を「C19吉寄清己研究支援寄附金」と命名し、「取扱規定」および「募集要項」を定め、食品生命科学課程の助手および助教から、申請に基づき、毎年、対象者を決定して来しました。その後、課程の名称が応用生命科学課程となり、当初は若手を対象としておりました本助成も、若手限定の研究助成と課程の名

声を高めるための研究助成の二本立てで公募され、平成27年度までに延べ13名、総額1,100万に及ぶ助成を賜りました。何の条件も無く、自由に使つてよい、この研究支援金が、食品生命科学課程および応用生命科学課程教員の研究推進にどれほど貢献したかは筆舌に尽くし難いものがあります。

こうした中で、私が課程長として就任した平成26年に、株式としての寄付申し出がありまして、しかし、受入れの大学側の

準備（制度）が追い付かず、年を越しました。平成27年6月に株式等の取扱い規定が本学で制定され、同年7月正式に寄付申出書を提出頂きました。学部においても、「吉崎清己氏教育研究支援基金取扱要項」が制定され、寄付金の原資であった関西ペイント（株）株式5万株の寄贈を受け、平成28年度からは「C19 吉崎清己教育研究支援基金」とし、その配当金を限度として、応用生命科学課程の教員を対象に教育研究支援金を給付頂くこととなりました。配当金の原資を考慮し、原則1名の公募とする新たな公募を現石田秀治課程長を選考委員長とする選考会により実施しました。平成28年度は准教授1名が、平成29年度は助教2名が助成を受けることとなりました。これまでに支援を受けました教員の氏名、研究課題や研究報告につきましてはこれまでの同窓会報に掲載されております。これを機会に、岐阜大学ホームページにアクセス下さい。サイト検索に「各務同窓会」と入力し検索すると、「各務同窓会」が最上段に出て参ります。ここから「各務同窓会」HPに入り、「会報」をクリック頂くと、過去の会報をPDFとして閲覧可能です。どの教員

がどのような研究で助成を頂き、どのように研究に生かして来たのかについて公開されておりますので、是非、ご覧頂ければと存じます。

生前、吉崎様は、課程教員の活動にも関心をお持ちでしたので、教員の研究活動について情報を提供して参りました。また、選考結果の報告と合わせて、毎年送付してきました研究助成報告書を楽しみにしていられつやいました。残念ながら、平成28年度の報告書を直接ご覧頂くことはできませんでしたが、吉崎様の墓前に報告書を供えさせて頂き、報告とさせて頂きました。吉崎氏の研究助成は、寄贈頂いた株式の配当を原資としておりますので、今後とも継続的に続きます。応用生命科学課程教員一同、改めてそのご厚志に感謝いたしますと共に、今後とも吉崎氏のご期待に応えるべく教育研究に邁進することをお誓いいたします。また本学部同窓生の皆様にも本学部における教育研究の推進のために引き続きご支援、ご援助賜りますようお願い申し上げます。

支部会員からの便り

茨城支部

浅野 博之



茨城支部は、茨城県内に在住する会員の20名で組織されており、そのほとんどが茨城県以外の出身者です。勤務により茨城県内に定住された方が多く、中には就農された方もいます。当支部では、秋に総会を開催することにしており、昨年は、10月22日に水戸市内のホテルで開催し、9名の

方が出席しました。夫婦で出席された方もいました。例年は、会員からの近況の報告や情報交換などをしておりましたが、今回は、先輩方に茨城に來たいきさつも話してもらいました。皆さん、戦後の復興期の中からの多彩で紆余曲折した歩みを語られ、波瀾万丈の半生を垣間見た感じがしました。

また、福島第一原発の事故についても話題になりました。茨城県内にも原子力発電所がありますが、福島と同じように津波をうけたのに事故にならなかったのは勳章ものでないかと、事故の後、ほとんど売れなくなった農産物が過去最高の販売額までになったことなど、東北ばかりでなく茨城での功績をもっと評価されるべきでないかなど激論が交わされました。3時間では足りないと思えるほど楽しい時間を過ごすことができました。

この度、9年間、支部長を務めた古賀様が退任され、野沢様が新たに支部長となりました。新支部長の下、新規会員の勧誘に力を入れるなど同窓会が発展するよう努力して参ります。

東京E科現役会から

西澤 慧

東京E科現役会は中央官庁の本省庁や関東農政局管内に在籍した農業土木職の現役職員等により構成されています。なお、多くが農林水産省で働いていますが、様々な部署への出向者等もいます。私も国土交通省に向していた時は、本会で集まる機会は、日頃接する機会が少ない諸先輩や仲間にあえる大変有意義な場でした。

これら、東京E科現役会が集まる機会として、毎年定期的に行っている総会があります。本年度も4月26日に東京E科現役会と東京E科会の総会を合同で行い、合計で12名が参加しました。ご来賓として、大学から応用生物科学部生産環境科学課程環境生態科学コース 水利環境学研究室の千家正照教授にご臨席頂き、大学の近況等を伺うことができました。私も含め千家教授の教え子も多く参加していたことから、みんな学生時代の様々な思い出がよみがえり、いつしか学生気分で時間のたつことを忘れ、楽しいひとときを過ごす



ことができました。今後とも、多くの諸先輩や仲間たちと総会や懇親会を開催し、会を盛り上げていきたいと考えています。私の近況となりますが、現在、農林水産省でジビエ（野生鳥獣肉）の利用拡大について携わっています。岐阜県は「ぎふジビエ」といった登録制度をつくるなど、先進的な県となっています。そして、これに携わっているのが岐阜大学になります。今後とも、岐阜大学から多くのことを学び、頑張っていきたいと考えてます。

徳島鳴門支部

えにし 縁

岩野 泰三（事務局）

江戸時代、「蜂須賀家」は十四代に亘って徳島藩を統治しましたが、それは豊臣氏の四国平定に際し、褒美として秀吉から阿波一国を与えられたことに始まります。戦功のあった人物とは「蜂須賀正勝」太閤記でお馴染みの通称「小六」でした。秀吉の傍で一生涯働くことを望んだ正勝は、この時家督を長男に譲り程なく大坂で没しましたが、もともと蜂須賀一党は美濃の斎藤道三の下、川並衆を率いて木曾川で水運業を営んでいたと伝えられています。江戸時代から近世にかけて、徳島の吉野川や那賀川でも葉タバコ、生糸や藍、木材など水運を活かした産業が隆盛し、大いに藩を潤すこととなりました。また、「阿波踊り」は蜂須賀さんの徳島入城を町民に祝わせたことに始まるという説もあり、中世から続く「郡上踊り」と並んで日本三大盆踊りと称せられています。そんなことから、徳島は美濃や尾張に不思議な「縁」を感じます。

徳島鳴門支部の会員数は現在二十九名ほどです。会員の高齢化は否めませんが、一方で大塚製薬など地元企業に転勤された方や退職後徳島を第二の故郷に選ばれた方の入会もあります。新たな「縁」が生まれることに感謝しています。

今年一月二十一日に開催した支部総会には、平工副会長さんをお迎えし、百周年記

念事業や大学の最新情報をお伺いしました。徳島から母校の益々の発展を祈念するとともに、岐阜との「縁」が将来に続くことを願ってやみません。



計 報

昨年の会報97号以後、平成29年8月までに御逝去が確認された方々は、次のとおりです。
謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

農学科	
A10	松 村 和 阿
A18	篠 田 郁 郎
A21	川 出 武 夫
A23	伊 豆 利 夫
A25	曾 我 哲 平
A25	丹 羽 仁
A大1	横 井 一 郎
A大3	牧 野 精
A大4	佐 武 忠 弘
A大4	窪 野 磨氣雄
A大6	川上（高橋）元男
A大16	水野（森）季睦
林学科	
F16	伊 東 元 洋
F19	野々村征祐(誠)
F20	秋 本 大太郎
F20	鈴 木 達
F21	氏 江 省 吾
F21	土 田 功
F21	水 本 光 和
F22	山 田 順 一
F23	花 木 達 之
F24	楯 茂
F大2	石 神 稔 夫

F大3	中 森 繁
F大9	藤 原 弘 昭
F大10	大 島 伸 生
F大17	西 川 一 哉
農芸化学科	
C5	安 井 種 友
C8	石 高 治 夫
C16	八 尋 清 彦
C19	牧村（高橋）栄治
C19	吉 寄 清 己
C21	尾 嶋 寿一郎
C23	辻 邦 司
C24	柴 田 嘉 昭
農産製造科	
C大1	奥 田 峻
C大2	津 川 昇
C大3	伊 藤 健 蔵
C大5	加 藤 救 夫
C大5	加 藤 晶 弘
C大10	相武（伊奈）竜夫
C大10	藤 川 芳 雄
C大11	小 野 隆 永
C大15	松 浦 泰 一
C大26	安 部 正 等

獣医学科	
V1	二 村 正比呂
V3	高 島 宏 元
V5	古波蔵 信 重
V7	兼 松 敦
V8	吉 村 久
V9	牧 野 鎮
V大8	石 黒 良
農業工学科	
E4	高 橋 忠 雄
E4	藤田（大矢）高堂
E5	細井（神戸）卓
E5	佐 高 成 大
E6	藤田（早崎）昭
E6	鷲 見 巖
E7	池 田 茂
E大2	西 澤 薫
E大7	倉 知 時 彦
E大8	山 岸 大志郎
E大24	宮 本 晃
E大27	山 田 昇
E大29	上 田 秀 久
家禽畜産学科	
P大7	神 谷 正 広

生物資源生産学科	
B大13	高 氏 つぐみ
農産製造科	
M2	小 川 真 也
生物資源利用学科	
R大5	岡留（若杉）明未
総合農学科	
N大2	岡 部 視 朗
N大9	吉 村 恵 夫
生産環境科学課程	
AE大2	川 井 ひとみ
実務科	
SP8	梶 本 環
SP14	川 上 三 郎
SP18	村 上 澄
農村工業実科	
AT3	川 島 勇
AT10	渡 辺 恭 二
農業専修科	
SP（昭21）	金 綱 捨 三
SP（昭21）	大 野 徳 夫
SP15	立 花 幸 勝
旧教員	
旧教員	脇 孝 介
旧教員	村 松 郁 栄

村松郁榮先生の思い出

村松先生は平成24年12月20日にご逝去されました。享年89歳でした。

小生は先生の現役時代の数年間に何度かお会いしたのですが、専門分野の関係もあり同じ農学部先輩ということ、若輩ではございますがここに拙稿を紹介させていただきます。

先生と初めてお会いしたのは、組合関係で私の先輩から紹介に与った時です。記憶では昭和58年だったかと思います。

当時の私の専門は地盤・土構造物の耐震設計で、ある所で大地震が生じた際に、そこからどれだけの揺れが生じるのかを過去の歴史地震を元に統計解析する手法に興味がありました。

当初は東大地震研所長であった河角先生のデータを理科年表から拾って解析していました。が、その理科年表に村松マゲニチュードが掲載されているのを知りました。その出典が岐阜大

学教育学部年報であるのを知って驚愕したのを記憶しております。

先生と組合イベントの後、スナックで初めてお話を聞くにつれ、なんと真摯な先生だと思いました。私の軽薄な質問にもちゃんと答え願ったことは以降の研究生活に非常に役立ちました。

そうこうしているうちに、先生のご退官講義が昭和62年初めに行われました。私はテープレコーダーを持参して録音しつつ、先生のユニークな性格と地震学・地震工学の熱き思いに感動しました。横山ダムが築造されてから約1ヶ月、いつ来るかわからない地震計測を泊まり込みで実施したことや、新宿のビルに頼み込んで地震計を設置したこと、などなど。

特筆すべきは、先生のご退官後に発刊された記念集「大自然の力」を読ませて頂いた際の、

西川浩三先生を偲んで



昭和39年東京オリンピックの年に日本海で生じた新潟地震についてです。当時、石油タンクが炎上した理由が未解明だったのですが、先生は地震の揺れが遠く離れた東京の高層ビルで観測され、構造物の揺れやすさが表面波によって増幅した結果であると述べられています。平成7年の兵庫県南部地震当日、テレビで余震が関西で生じたと報道があった約30秒後に小生の自宅で揺れを感じた際に感動した記憶が今でも忘れられません。

ご退官後はネットで地震動の執筆をなさっていたのを拝見したぐらいでお話は一切しておりません。研究一筋の先生だと思っていました、ある日図書館で新聞を読んでいると囲碁欄に先生の棋譜が掲載されていた。へボ碁の小生と付き合っていた頂けたらなあ、と想いに耽っていた過去が懐かしく感じられます。

末筆になりましたが、先生のご冥福をお祈り致します。

清水英良

去る8月13日、西川浩三先生は89歳の生涯を閉じられました。神奈川県での施設にて、眠るようにならに旅立たれたそうです。西川浩三先生は植物遺伝育種学研究室において教授としてコムギの遺伝学研究に従事され、後に岐阜大学名誉教授および木原記念財団専務理事を歴任されました。

私は平成22年に着任致しましたが、岐阜には地縁も血縁もなく、Principal Investigator (PI) として研究室を一から立ち上げなければならませんでした。

大変心細くしておりました折に、西川先生から連絡を頂戴し、ヘテロ会という伝統ある同窓会組織の存在を知りました。それが西川先生との出会いです。

西川先生は、子供がまだ小さく夫が単身赴任という身で思うように研究ができない私のことを、

「山根先生の応援団になりたい」とおっしゃって下さり、精神的な支えになって下さいました。心身ともに本当に苦しい時期でしたので、今でも思い出すと涙が出ます。

その後もヘテロ会の方々と交流させて頂くなかで、いかに信念をもつて運営されていた研究室であつたかを知るに至りました。

・どんなに会議などで忙しい日々でも必ず毎日顕微鏡を覗かれるなど、実験を続けられたこと

・頭脳を使う仕事をしている人は身体も鍛えなければならぬという信念のもと、晩年までデニスを続けられたこと

その他にも数々の胸に染み入る御言葉を私たちに遺して下さいました。

最高学府において、まさに理想的な研究室だったのだと思います。同窓会の皆様御一人御一人

人がしつかり研究室の理念を受け継がれ各方面で活躍されておられる御姿を拝見するたびに、師として先導された先生方の偉大さを思倣すばかりです。

本日は8月最後の日です。

戦争を体験された師がまた一人いなくなってしまうわれだということに、いつそうの寂しさをおぼえます。現代の私たちには想像を絶するご苦労があつたと思うのです。

戦後の混乱期、食べることもままならなかった時代に、学問をうちたてられ、思想をつなぐご覚悟を貫きとおされた信念を、平和過ぎる今を生きる私ごとときがつかないでゆけるのでしょうか。

悩み多き教員生活のなかで、少し余裕ができた今こそ、西川先生の御話しをもっともっと聞いておけばよかった、もっとたくさんのお話を教えて頂きたかったと、後悔の念は尽きません。

御身体具合がよいこと、をうかがっておりましたので、9月には神奈川県まで先生に会いに行こうと思っております

がかないませんでした。最後の最後まで何一つ恩返しらしいことができず悔いております。せめて、先生の御教えを、御意思を、ヘテロ会の方々と一緒に後世に受け継ぐことで償えたら、それが私にできる唯一のことなのかもしれません。

最後になりましたが、西川先生、私の代になりました後も、岐阜大学植物遺伝育種学を卒業する学生さんはまじめで誠実な人たちがばかりです。ヘテロ会の血は、確実に受け継がれております。どうぞご安心頂き、これからも見守って頂けたら幸いです。

心よりご冥福をお祈り申し上げます、先生への感謝の言葉とかえさせて頂きたいと思いた。本当にありがとうございました。

岐阜大学応用生物科学部
生産環境科学課程
応用植物科学コース
遺伝育種学研究室

山根 京子

事務局からのお知らせ

同窓会員の皆様には、日頃より格別のご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。今年度も、年に一回の各務同窓会報を無事発行することができ、会員の皆様方には心より御礼申し上げます。今年は、7月の九州北部での豪雨、各地でのゲリラ豪雨など、日本各地で異常気象による大変な災害に見舞われております。皆様におかれましては、お変わりはありませんでしたでしょうか。

本年度の各務同窓会の役員会は、水野隼人会長と杉山誠名誉会長(学部長)を軸に、7名の副会長、4名の相談役で構成され、それを支える事務局として、現職教員6名(幹事長・幹事・監事)がお手伝いさせていただいております。さて、岐阜大学農学部・応用生物科学部は平成30年に創立95周年を、そしてその5年後には創立100周年という節目を迎えます。創立95周年には岐阜大学にて講演会を、また創立100周年には、記念誌の発行、祝賀会、植樹やモニユメントの設置などを計画しております。ぜひこの機会にご

来校いただければ幸いに存じます。また、この事業に向けて今年秋ごろから募金の募集を開始する予定です。皆様のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

事務局の役割に、同窓会の活性化があります。その重要なひとつが現役学生に対する勧誘活動です。今年度も、入学式当日に会費納入の呼びかけを実施いたしました。本来は全員の新入生に入会していただきたいところですが、近年の入会率は7割程度を推移しております。新しく学生に入会していただき、卒業後も積極的に同窓会に関わっていただくことが同窓会の活性化、継続性にとって重要なことであると思います。そのためにも、まず同窓会に入会する意義や魅力を学生にいていねいに説明するなど、積極的な勧誘活動を実施する必要性を感じています。

末筆ながら、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げますとともに、今後のよりいっそうのご発展をお祈り申し上げます。

寄附金のお願いについて

平成20年から、始めました寄附金制度は趣意書にもありますように継続していきますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

詳細は同封の「応用生物科学部への寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました2週間経過後、応用生物科学部より、郵便局の振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

詳しくはこちらを確認してください。

申込書の記入方法

* 申込書に必要事項をご記入の上、下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
岐阜大学応用生物科学部学務係気付
岐阜大学各務同窓会事務局

第98号

平成29年11月30日
岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL (058) 293-3411
FAX (058) 293-2841

振替 00820-9-12742

http://www.abios.gifu-u.ac.jp/kagami/
e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp

【申込書】

住所氏名を記入し、押印してください。

金額を記入してください。

1 寄附金額 円

2 寄附の目的及び条件

目 的 岐阜大学における学術研究費

条 件 なし

3 寄附金の名称

岐阜大学奨学寄附金

4 その他(主たる寄附金対象部局等)

応用生物科学部共通
(対応責任者: 職名 応用生物科学部長 氏名 杉山 誠)